

取組概要

- ジェンダー平等プロジェクトチームがテーマの1つとして「防災」を検討し、「ジェンダーと防災に係る専門委員」の設置を提案
- 実際に防災会議内に専門委員を設置し、性別や障害の有無等にかかわらず多様な人達を委員に任命



取組のきっかけ 『防災分野において多様な視点で議論したい！』

庁内横断的にジェンダー視点を取り入れた施策について検討する「ジェンダー平等プロジェクトチーム」が立ち上がり、主要テーマの1つに「防災」が位置づけられた。

阪神・淡路大震災の被害を経験して、災害の脅威を認識してきたが、これまで防災の分野においてジェンダー視点の議論を行っておらず、防災会議の委員も女性の割合が少なかった……



多様な視点を踏まえた災害対策を議論するため、市に対して
防災会議内に「ジェンダーと防災に係る専門委員」を設置することを提案。

多様なメンバーから意見を出してもらい、出された意見は全て丁寧に扱うことを目指そう！

兵庫県
明石市 総合安全対策室

電話:078-918-5069
<https://www.city.akashi.lg.jp/anzen/>



明石市HP▶

27

事例11 「防災会議内に専門委員を設置し、ジェンダー視点と多様性を考慮した計画に改定！」 兵庫県明石市

【取組概要】

- ジェンダー平等プロジェクトチーム(※)がテーマの1つとして「防災」を検討し、「ジェンダーと防災に係る専門委員」の設置を提案しました。
- 実際に防災会議内に専門委員を設置し、性別や障害の有無等にかかわらず多様な人々を委員に任命しました。

【取組のきっかけ】

- 令和3年8月に庁内横断的にジェンダー視点を取り入れた施策について検討する「ジェンダー平等プロジェクトチーム」が立ち上がり、ジェンダーの視点を取り入れた施策が更に必要な「防災」「教育」「家庭・社会」「職場」「意思決定過程」の5つが主要テーマとして位置づけられました。
- 防災分野においては、過去の災害の教訓を踏まえて、災害対応力を強化するためにジェンダーや多様性の視点を盛り込むことが重要であると考えられてきました。しかし、阪神淡路大震災(平成7年兵庫県南部地震)の被害を経験し、災害の脅威を認識してきたにもかかわらず、これまで防災の分野でジェンダー視点の議論を積極的に行っておらず、防災会議の委員も女性の割合が少ないという状況でした。防災会議の条例を確認してみたところ、専門委員を設置できることが分かりました。
- そこで、多様な視点を踏まえた災害対策を議論するため、ジェンダー平等プロジェクトは市に対し、防災会議内に「ジェンダーと防災に係る専門委員」を設置することを提案しました。
- 専門委員による会議では、多様なメンバーから意見を出してもらい、出された意見は全て丁寧に扱うことを目指しました。

※「ジェンダー平等プロジェクトチーム」とは、ジェンダー平等の推進を具現化するための方策を検討するため、令和3年8月に庁内公募により選任した男女各7名の職員からなるプロジェクトチームです。
(<https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/gender/genderbyoudou.pt.html>)

1 地域の関係者や障害者、高校生など、多様な方々が専門委員として参画！

ジェンダーと防災に係る専門委員

- ジェンダー平等推進室と総合安全対策室で相談しながら、委員には**有識者**、市内で防災教育や避難所運営に関わる**小学校校長、保健師、まちづくり協議会の会長**、防災甲子園などに取り組む**高校生**を選任した
こんないいことがあった！
- 過去の災害の経験を踏まえ、委員候補者と**性別・年齢・障害の有無等の多様な観点から災害対策を考えることの重要性を共有**した
- 当事者（障害者）に関するテーマを検討した際は、**臨時委員として障害者にも参画**を依頼した

ジェンダーバランスを図るとともに、多様な人達が委員に参画することで、障害者等の要配慮者の防災対策も含めて幅広く話し合えた！

全ての委員が意見を出した！



職員が当事者の声を学ぶ機会にも！

会議の進め方

- 全4回の**会議形式による会議**に加え、模造紙と付箋を用いた**ワークショップ**を実施した
こんないいことがあった！
- 全ての意見を書き留め**、出た意見を「すぐに取り組む業務」と「中長期的に取り組む業務」に整理した
これがコツ！

ワークショップなどで若者から意見が多く出ること、他の参加者も意見を出そうという空気になり、**活発に議論**ができた！

1つの意見もつがさず、**全ての意見を大切に**ができた！



28

①地域の関係者や障害者、高校生など、多様な方々が専門委員として参画！

<ジェンダーと防災に係る専門委員>

- 「ジェンダーと防災に係る専門委員」(*)の選出にあたっては、ジェンダー平等推進室と総合安全対策室で相談しながら、多様な方々を委員候補として選定しました。委員には、有識者、小学校校長、保健師、まちづくり協議会の会長、高校生を選任し、臨時委員として障害者を選任しました。選任に当たっては、過去の災害の経験を踏まえ、性別・年齢・障害の有無等の多様な観点から災害対策を考えることの重要性を共有しました。また、障害者などの当事者に関するテーマを検討する際には、障害者、学生、地域の方々などにも参画を依頼し、ワークショップを実施しました。これらの工夫により、委員全体のジェンダーバランスを図るとともに、多様な方々が委員に参画することで、障害者等の要配慮者の防災対策も含めて、幅広く話し合うことができました。

<会議の進め方>

- 専門委員は全4回開催され、会議形式による会議に加え、模造紙と付箋を用いたワークショップを実施しました。ワークショップなどで若者から意見が多く出ると、他の参加者も意見を出そうという空気になり、活発に議論することができました。
- 会議やワークショップで出された全ての意見を書き留め、「すぐに取り組む業務」と「中長期的に取り組む業務」に整理しました。これにより、1つの意見もつがさず、それぞれの意見を大切に扱うことができました。

※「ジェンダーと防災に係る専門委員」は、災害対応力を強化するために、性別・年齢・障害の有無・家族形態などの多様な観点を盛り込むことを目指し、ジェンダーや障害等の多様な視点から求められる対策について検討を行うために設置しました。

(<https://www.city.akashi.lg.jp/anzen/anshin/bosai/bousaikaigijennda.html>)

2 専門委員の提言をまとめ、計画の修正に反映！

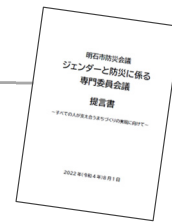
提言書作成と計画修正

- 全4回の会議を通じて協議された多様な方々の防災活動への参画や、ジェンダー平等の視点に立った避難行動及び避難所運営、職員が安心して災害対応にあたる環境の構築などの内容をとりまとめ、**提言書(案)**を作成した
 - 提言書(案)をもとに**総合安全対策室が計画の改定案を作成した**

こんないいことがあった！

専門委員から提言された項目を**地域防災計画に反映し、計画全体を通して、ジェンダーや要配慮者に関する視点から見直す**ことができました！

多様な人々が参加！



計画修正後の防災訓練

- 訓練の企画はこれまで**市の担当者のみ**が担っていたが、**企画の段階から地域の方と事前打合せ**を重ねた
 - 専門委員(まちづくり協議会の会長)が活動する地域を防災訓練の会場とし、委員の高校生とも一緒に企画を実施した**
 - 訓練では、参加した地域住民の性別に関わらず役割を分担し、受付や障害者の案内、避難名簿の回収、簡易ベッドの組立などに取り組んだ

こんないいことがあった！

市と地域が連携した取組が増え、防災訓練に学生や障害当事者が参加するなど、**専門委員をきっかけとした横のつながりができた！**

女性を含む**多様な地域住民による避難所運営への協力**が推進された！



②専門委員の提言をまとめ、計画の修正に反映！

<提言書作成と計画修正>

- 全部で4回実施された会議では、主に以下のことについて協議されました。
 - ジェンダー視点を取り入れた多様な人々による地域の防災活動への参画
 - ジェンダー平等の視点に立った避難行動及び避難所運営
 - 子育て、介護等を抱える職員が安心して災害対応にあたることのできる環境の構築
 - 多様性を考慮した備蓄物資の購入

市の事務局がこれらの内容をとりまとめ、「ジェンダーと防災に係る専門委員会会議 提言書」(※)の案を作成しました。また、この提言書をもとに総合安全対策室が地域防災計画の改定案を作成しました。専門委員から提言された項目を計画に反映し、計画の全体を通して、ジェンダーや要配慮者に関する視点から見直すことができました。修正された計画では、「すべての人が支え合う 災害に強く 人にやさしいまちづくり」という防災理念が掲げられています。具体的には、主に以下のことが反映されました。

- 避難所に配置される市職員の性別等が偏らないようにすること
- 災害時にDVや性暴力被害などに対する支援が滞らないようにすること
- 災害時における職員の交代体制を確立し、子育てや介護等を行う職員を含む職員が災害対応に取り組める環境を構築すること

<計画修正後の防災訓練>

- これまで市の担当者のみで行っていた防災訓練の企画について、地域防災計画を修正してからは、地域の方にも企画段階から参画していただき、地域の方と事前打合せを重ね、企画の段階から連携することができています。専門委員の一人である「まちづくり協議会の会長」が活動する地域を防災訓練の会場とし、委員の高校生とも一緒に企画しました。また、訓練では、受付や障害者の案内、避難名簿の回収、簡易ベッドの組み立てなどを性別に関わらず地域住民が分担して行いました。専門委員の設置による取組を機に市と地域が連携した取組が増え、防災訓練に学生や障害当事者が参加するなど、専門委員をきっかけに横のつながりができました。さらに、女性を含む地域住民による避難所運営への協力が推進されました。

※「ジェンダーと防災に係る専門委員会会議 提言書」は、令和4年8月1日、ジェンダーと防災に係る専門委員会会議より、明石市防災会議へ提出されました。

(https://www.city.akashi.lg.jp/anzen/anshin/bosai/jennda_teigennsho.html)